甦礼!!協同組含運動





CONTENTS

| - 県内系統·関係機関 年頭ごあいさつ ···································· | 1 |
|----------------------------------------------------------|----|
| 全国系統団体 年頭であいさつ | 7 |
| シンガポール青森県フェア開催 | 10 |
| 平成27年度役職員研修会開催 | 11 |
| 密漁撲滅にむけた罰則強化等の要請 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 12 |
| 第30回漁協運動功労者表彰、平成27年度水産功績者表彰 | 13 |
| マイナンバー制度に関する漁協職員研修会開催 | 14 |
| 青森県漁協系統購買担当者研修会開催 •••••••••••••••••••••••••••••••••••• | 15 |
| 共販販売担当者会議開催 •••••••••••••••••••••••••••••••••••• | 16 |
| 海難防止技術競技会 青森県大会開催 | 17 |
| むつ湾漁業振興会役員視察研修 | 19 |
| 水産に関する主な動き(8月~12月) | 20 |
| 第43回「海をきれいにする運動」入賞作品紹介 | 21 |
| | 25 |

2016.]

資源・金融・共済の三本柱推進

平成二十八年県内系統·関係機関

年頭ごあいさつ



代表理事会長 赤石 憲 一青森県漁業協同組合連合会

挨拶を申し上げます。 平成二十八年の新春を迎え、謹んで新年のご

くお礼申し上げます。会の業務運営に対し、格別なるご高配を賜り厚会の業務運営に対し、格別なるご高配を賜り厚金員はじめ関係の皆様には、日頃より当連合

す。 す。 なて、平成二十七年の漁業情勢を顧みます さて、平成二十七年の漁業情勢を顧みます さて、平成二十七年の漁業情勢を顧みます

てのような状況の中、十一月十二日、「全国は、非常に厳しい結果と言わざるを得ません。 が、市場で見税が撤廃されることになったこと が、市場アクセス分野において、一定の関税撤廃期間等の配慮はな 野において、一定の関税撤廃期間等の配慮はな 野において、一定の関税撤廃期間等の配慮はな が、市場アクセス分 になったことは大いに が、非常に厳しい結果と言わざるを得ません。 をの国の政策決定権が維持されたことは大いに が、非常に厳しい結果と言わざるを得ません。 といての水 が、市場アクセス分 になったこと はないに が、市場アクセス分 になったこと になったこと はないに できるものでありますが、市場アクセス分 になったこと になった。 にな。

求める決議が満場一致で採択されました。漁連(府県漁協)・信漁連会長、漁済組合長合漁連(府県漁協)・信漁連会長、漁済組合長合漁連(府県漁協)・信漁連会長、漁済組合長合漁連(府県漁協)・信漁連会長、漁済組合長合漁連(府県漁協)・信漁連会長、漁済組合長合漁連(府県漁協)・信漁連会長、漁済組合長合漁連(府県漁協)・信漁連会長、漁済組合長合漁連(府県漁協)・信漁連会長、漁済組合長合漁連(府県漁協)・信漁連会長、漁済組合長合漁連

路拡大と魚価の向上に努めて参ります。して、全漁連の協力のもと、十月三日から十七日までの二週間、シンガポールにおいて、本県自慢の魚による「青森県フェア」を開催し、魚食普及とPR活動を展開致しました。これを足までの二週間、シンガポールにおいて、本県日までの二週間、シンガポールにおいて、本県日までの二週間、シンガポールにおいて、本県日までの一環と当連合会では、魚食普及・輸出振興の一環と

い申し上げます。参りますので、皆様には今後ともご協力をお願役割・使命を再確認し、更なる活動を展開して役割・使命を再確認し、更なる活動を展開して、以下の原点・

被害を乗り越え、ホタテの取扱高が平成十七年さて、本県の漁業においては、近年の高水温

意を表するところであります。
ことは漁業者並びに関係漁協の努力の賜物と敬以来十年ぶりとなる百億円を突破いたしました

状況にあります。騰が追い討ちをかけ、漁業経営は極めて厳しい減退による魚価の低迷、燃油・漁業資材等の高要魚種の漁獲不振が恒常化しており、更に消費要(重なの)をは、スルメイカをはじめとする本県主

向け、 挨 基盤の強化策として漁協合併を視野に入れた組 漁獲の減少により廃業の危機さえ憂慮される状 解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。 ながら積極的に取り組んで参りますので、 ておりますが、本年も引き続き漁業所得安定に 況にあります。当連合会といたしましても国に しては、二十七年度から取組みが開始されまし 合併の枠組みを構築し、 また、 更に、 拶といたします。 再編の必要性を再確認するとともに、 命胴衣常時着用をお願い申し上げ、 並びに海上安全をご祈念申し上げ わりに、 資源管理体制の改善、支援策等を要望し 国等に働きかけて参る所存であります。 漁獲制限等により浜は混乱し、 年々漁協経営が厳しさを増す中、 太平洋クロマグロの資源管理につきま 皆様のますますのご健勝とご多 関係機関と連携を取 漁業者は 新年のご

ことにより、

ホタテガイ養殖業の安定に引き続



青森県農林水産部 水産局長 山 内

髙

博

けましておめでとうございます。

眀

おります皆様に謹んで新春の御挨拶を申し上げ 県水産業の振興と発展に御尽力いただいて

ます。

です。 か 昭 況自動観測システムが観測精度を向上させ、 円を超え、 調が続いていたホタテガイ養殖業が好調に推移 適切かつ迅速に漁業者の方々へ情報提供する しました。 査においても、 らは最高となりました。 和三十六年以降二番目に多く、平成に入って 長しており、 昨年は、 生産量では十万トン、 また、 特に生産額は、 これまで異常高水温等により生産不 県としては、 昨年八月には、 今年の生産も期待が持てる状況 新貝、 稚貝ともに概ね順調に 生産額では一六〇億 県が統計を開始した 陸奥湾の水温情報等 秋のホタテガイ実態 五代目の陸奥湾海 始

き寄与するものと考えています。

す。 もに、 ます。 御苦労された漁業者の方も多かったことと思い 0) 皆様の御理解と御協力をよろしくお願い致しま していきたいと考えておりますので、 者の意見を踏まえながら、 的に漁業収入安定対策を活用していただくとと 昨 年から始まりました。この資源管理により、 小型魚の漁獲量半減という厳しい資源管理 方で、クロマグロについては、三十㎏未満 県では、 資源管理の課題等の解決に向けて、 漁業者の減収対策として、 国や関係道県と協議 引き続き 積極 漁業 が

Ç) 船 は、 組織的で悪質な密漁事件が発生しました。 、ますが、 また、 「うとう」を参画させた監視活動を実施して 高感度監視カメラ装置を装備した漁業取締 ナマコについては、 県漁連等の要望を受け、 陸奥湾において、 関係機関と 県で

> のさらなる情報共有を図り、 について要望したところです。 に対しては、十二月十一日に密漁の罰則強化等 向けた監視活動等を強化しており、 ナマコの密漁撲滅 また、 玉

に

貢献してくれるものと期待しています。 調査等に取り組み、 船 魚灯等の新たな装備や安全性、 0) に竣工した漁業試験船 ると不漁となりましたが、 さらに、本県主要魚種であるサバ、 漁場予測の調査や本県沖合における海洋環境 体能力を活かし、 アカイカ等については、 本県水産業の成長産業化に 旧開運丸以上にアカイカ等 「開運丸」が、 県では、 昨年は平年に比べ 効率性に優れた 昨年十一月 スルメイ L E D

すので、 す。 様と一丸となって本県水産業を盛り上げ、 産業・経済を幅広く支える重要な基幹産業であ る発展を目指し、 るとの認識のもと、今後とも水産業に携わる皆 層の御理解と御協力をよろしくお願い致しま 県といたしましては、 関係者の皆様におかれましては、 各種施策に取り組んでいきま 本県の水産業が地域 更な

繁栄、 まして、 結びにあたり、 そして操業の安全を心からお祈りいたし 新年の御挨拶といたします 皆様のますますの御健勝と御



代表理事会長 西崎 義 二青森県信用漁業協同組合連合会

申し上げます。 漁協系統関係者の皆様に謹んで新春のご挨拶を 年頭にあたり、県下漁協組合員の皆様並びに 新年あけましておめでとうございます。

す。 に役職員一同、皆様に心より感謝礼申し上げま 新しい年、二○一六年を無事迎えられたこと

ります。 されることと予想されます。 二十三年ぶりの高水準と、 今後我々水産業界に対しても難しい課題等が課 す。さらに、昨年十月にTPPが大筋合意され、 おいては景気回復の実感が乏しいとされていま 高水準となり、 年が経過し、上場企業収益については過去最 ので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。 員一丸となって再発防止に取り組んで参ります び申し上げます。今後は信頼回復のため、役職 なご心配とご迷惑をお掛けしたことを深くお詫 頃よりJFマリンバンクをご利用の皆様に多大 祥事件が発覚し、会員及び関係各位、並 さて、 また、 済情勢ですが、新安倍政権が発足してから三 しかしながら、中小企業や零細企業に 昨年は当連合会におきまして二件 昨年を振り返りますと、まずは国内の 九月における有効求人倍率も 景気が回復傾向にあ 立びに日 0) 不

5る、企業収益の拡大、設備投資の増加、賃金7ノミクスは、円安・株高と資産価格の上昇にまた、長引くデフレからの脱却を目指したア

生 となったのではと予想されます。一方、国内総 在 費も力強さは欠けていて、景気のけん引役は不 ない企業も多く、国内の景気の柱となる個人消 依然として設備投資には慎重な姿勢を崩してい プラスに上方修正されました。しかしながら、 マイナス成長とされておりましたが、十二月に のあ 企業には浸透していないように思われます。 一の状況が続いています。 産については昨年十一月発表で2四半期連続 円安をほぼ横ばいで推移し、円安傾向も終焉 りましたが、昨年は米ドルあたり一二〇円台 また、為替レートについては年々円安傾向 してきましたが、 昇による消費増加からの企業収益の拡大を 前述同様に中小企業や零 細 目

目が離せない状況となっております。すリスクがあり、今後も世界の経済については減速感は、日本国内のGDPにも悪影響を及ぼ減速感は、日本国内のGDPにも悪影響を及ぼった、世界情勢に目を向けますと昨年十一月

めの積極的な運動を展開しております。 めの積極的な運動を展開しております。 と無価の低迷、燃油の高止まりといった状況 が長年続いております。JFグループとしても喫 に晒されております。JFグループとしても喫 に晒されております。JFグループとしても喫 に晒されております。JFグループとしても喫 に晒されております。JFグループとしても喫 に晒されております。JFグループとしても喫 に晒されております。JFグループとしても喫 に晒されております。JFグループとしても喫 に晒されております。

> また、本県漁業においては、主要魚種である また、本県漁業においては非常に厳しい状 方、スルメイカ漁業については非常に厳しい状 力年ぶりの百億円突破の実績となりました。一 九年ぶりの百億円突破の実績となりました。一 大のとなっており、漁業経営意欲の減退が危惧さ れるところです。

す。 円となり、 あるスルメイカの水揚金額(県漁連取扱分)は 数量・金額とも前年度を上回りましたが、後半 た。しかしながら、鮮魚類は、 十一月末でホタテの水揚金額 (県漁連 前年比約十五パーセント減少の二、八五〇百万 に落ち込み、十一月時点では、 は前年比、約六六パーセントの増加となりまし 水揚げ状況につきましては、 大変然厳しい状況となっておりま 上 特に主力魚種で 平成二十七年度 期では総じて 取 (扱分)

た対応をして参ります。会といたしましても漁業者の皆様の立場に立っ融資対応等の要請・要望が上っており、当連合配の窮状を受け漁業者の皆様から当連合会に

5 併につきましては浜との接点を最重要課題とし おります。 して参る所存でございますので、今後とも変わ て、今以上のサービスを提供できるよう、努力 ながら、 会員漁協の役職員及び系統団体等と協議を重ね 集約する予定で、昨年はその五ブロックにおい ことから、 広域化研究会(広域合併構想)に参画している て地区別説明会を開催しております。 また、当連合会としては、 ぬご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願 慎重に進めて参ります。なお、 店舗の直営化及び再配置を目指して 第一案として、 県内を五ブロックに J F マリンバンク 今後も、 広域合

のご支援の賜物と感謝いたしております。 調に推移いたしております。これも一重に皆様 しい伸び率ではありますが、計画比では概ね順 ます。しかしながら、貸出金残高については厳 円、貸出金残高九、一七九百万円となりました。 二十七年十一月末で貯金残高六三、〇〇三百万 年と比較して貯金残高は大幅に増加しており さて、 当 連合会の経営状況ですが、 平 成

Fマリンバンク全国統一キャンペーンのタイ アップ商品とし、 金平成二十七年度末残高五二五億円達成を目標 貯金業務につきましては、 JFマリンバンク懸賞付定期貯金をJ 貯蓄推進を行うと共に年金受 青森県漁協系統貯

> 充推進に努めて参ります。 口座獲得・公共料金等の口座振替獲得件数

拡

参ります。 付)をメインに生活資金の融資の拡充を図って 用した設備資金の促進と住宅ローン(協会保証 漁業経営アシスト資金(保証人原則不要)を活 が、今年度においても昨年度よりスタートした 種ローンの推進をしているところであります 貸出業務につきましては制度資金をはじめ

置したことから、 合会において機構改革により店舗巡回部署を設 を増すものと予想されますが、昨年十月に当連 今後は、漁業環境、経済環境が、より厳しさ 各店舗の巡回指導等により、

進と管理体制の強化に取り組んで参ります。 充実させ、 JFマリンバンクとしての相談機能をより一層 関係団体等と連携強化を図り融資推

す。 て、 談・ご利用くださいますよう宜しくお願 漁業者の皆様には貯金・貸出等につきまし 当連合会の各店舗を通じてお気軽にご相 心いしま

支援・ご愛顧賜りますよう重ねてお願い申し上 すとともに、JFマリンバンクへの変わらぬご 方のますますのご健勝とご多幸を祈念いたしま にとりまして豊かな年となりますことと、皆様 結びといたしまして、 新年のご挨拶といたします。 新たな年 が青森県漁業



青森県漁業信用基金協会

理事長

ます。 することができましたことを大変うれしく存じ 平成二十八年の輝かしい新年を皆様とお迎え 新年おめでとうございます。

厚く御礼申し上げます。 日ごろ当協会の業務につきまして、 関係機関より格別の御指導、 御協力を賜り 県、 市 町

さて、 くには、 、源環境の劣化、燃油・資材価格の高止まり、 漁業者の高齢化や就業者の減少等によ 最近の漁業を取り巻く情勢は、 漁場・

証

す。 は、 り 厳しさを増しており、本県中小漁業者の経 これまでにない深刻な状況となっておりま 営

後継者対策に資するための漁家環境の向上を目 た「沿岸漁業推進関連資金」や「極度貸付根保 ましても関係機関と連携し、 役割を発揮することが必要と考え、当協会とし そして私ども「系統団体」が一丸となり、 このような時こそ、 資金」等に加え、漁業者の維持・安定並びに 漁協並びに漁業者の皆 本県独自に創設し その

> 業」として継続)についても積極的に取り組ん 二十八年度からは、「漁業者保証円滑化対策事 である「無保証人型漁業融資促進事業」(平成 的 でおります。 とした「事業関連住 宅資 金」 や 玉 の事

願いいたします。 皆様の更なる御理解、 漁業』の構築に引き続き努めて参りますので、 の三本柱を効率よく循環させるための 立』、『漁業金融の円滑化』、『漁業共済加入推進』 した漁業経営を確保するため、『水産資源の確 続的に応えるとともに、融資を受けた後の安定 また、 漁業金融への浜のニーズに的確 御支援を賜りますようお 『循環型 かつ持

びに海上安全をお祈り申し といたします。 結びに、 皆様のますますの御繁栄と御健勝並 上 新年 の御挨拶



青森県漁船保険組合

組合長理事 福 島 哲 男

新春のお慶びを申し上げます。 . 組合、 平成二十八年の新春を迎え、組合員、 新年明けましておめでとうございます。 水産関係団体の役職員の皆様に心から 漁業協

め

理による数量規制、 ありました。 魚価の低迷、後継者不足に加え、マグロ資源管 漁はあったものの、依然として水揚げの減少、 巻く環境をみますと、陸奥湾ホタテ養殖業の好 平成二十七年の本県の漁業・水産業界を取り TPP問題等厳しい一年で

化など漁船漁業を取り巻く厳しい環境の中、 漁船保険業界は、 漁船の減少、漁業者の高齢 漁

額の漸減を余儀なくされております。船保険組合の経営基盤である加入隻数、 り、また、法改正などの協議を重ねているとこ 平成二十九年四月の一元化に向けての組織作 にお諮りし決議頂きました。この決議を受け、 議を平成二十六年三月十日開催した臨時総代会 た漁船保険組織として再編することに対する決 険組織と漁船保険中央会を一元化し、統合され 化された組織体制が必要となり、全国の漁船保 険組織の財政基盤を強化し、より合理化・効率 め、漁船保険制度が今後も引き続き漁業者のた の保険として有効に機能するために、 漁船保 そのた 保険

> す様お願い申し上げます。 法改正の成立を受け、本年十一月又は十二月に ますので、今後ともご理解とご協力を賜わりま 合に承継するご承認等を賜る予定となっており 予定される臨時総代会で新組合の設立及び新組 ろであります。今後予定される国会においての 合設立発起人に対するすべての権利義務を新組

ります。 事故防止事業の充実等事業の推進を図ってまい め、保険金の早期支払、未加入漁船の加入促進、 家経営の安定に資する」の目的を達成するた すが、漁船保険組合は漁船保険の使命である「漁 が進み、今後も経年損耗に起因する事故の発 により保険金の支払も増加するものと思われま 漁船保険は、継続加入船の高船齢・高機齢化

まして新年のご挨拶とさせていただきます。 終りに、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたし



青森県漁業共済組合

組合長理事 三津谷 廣 明

「ぎょさい」と「積立ぷらす」は漁業経営の大きな支え

ございます。 青森県の漁村の皆様、 明けましておめでとう

新春にあたり、 皆様の本年のご多幸を心より

祈念申し上げます。

等の自然災害による漁業被害、 わが国の漁業・養殖業は、台風、爆弾低気圧 資源減少による

> の対策が求められています。 さらに厳しい状況になることが懸念されるた 費の食肉への移行や水産物価格の下落が進み、 関税撤廃等が近い将来実施されると、水産物消 抱えています。加えて、TPP交渉合意による 不漁、 影響を乗り越える強い水産業づくりのため 燃油・資材等のコスト高といった問題を

行政庁や漁業関係団体と連携しつつ、 づけられています。ぎょさい団体では普及推進 経営の安定のための国の重要な施策として位置 定対策事業(積立ぷらす)」は、 このような中、「ぎょさい」と「漁業収入安 国運動「しっかり加入で安心経営」を展開し、 引き続き漁業 組織を挙

です。の浸透・定着を目指して取り組んでいるところの浸透・定着を目指して取り組んでいるところげて「ぎょさい」と「積立ぷらす」のより一層

者の皆様のご理解と関係各位のご支援ご協力の大変多くの皆様のご出席を賜り五十年の節目を大変多くの皆様のご出席を賜り五十年の節目を大変多くの皆様のご出席を賜り五十年の節目を大変多くの皆様のご出席を賜り五十年の節目を大変多くの皆様のご出席を賜り五十年の節目を大変多くの皆様のご出席を賜り五十年の節目を大変多くの皆様のご支援ご協力の

平成二十八年度は「しっかり加入で安心経き続き、平成二十七年度の目標である共済金額五六億七千万円(前年度同期比二億四千万円、漁業者積立金額六億四千五百万円の達成に向け、加入推進に邁進しております。引用増)となり高い水準で推移しております。引用増)となり高い水準で推移しております。引用増)となり高い水準で推移しております。引用がであり、心より厚く御礼申し上げます。

げて取り組んで参ります。う運動目標の達成に向け、加入推進に全力を挙解消及び既契約者の補償力の充実を目指すとい安心して漁業経営を継続できるよう、未加入のぷらす」を利用することにより、将来に亘って

い申し上げます。 本年も皆様のご支援ご協力を賜りますようお願大きな支えとなるよう努力して参りますので、経営安定対策の役割を十分発揮し、漁業経営の経営安定対策の役割を十分発揮し、漁業経営の



とは長 え 川 券農林中央金庫青森支店

業者が「ぎょさい」に積極的に加入し、「積立営」運動の最終年度になりますので、全ての漁

支店長 及川勝治

の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げますとともに、私ども農林中央金庫の業務につきましともに、私ども農林中央金庫の業務につきましともに、私ども農林中央金庫の業務につきました。平素より特段のご理解とご協力を賜り、心の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

取り巻く環境は一層厳しいものとなっておりまおり、本県主要魚種であるスルメイカをはじおり、本県主要魚種であるスルメイカをはじおり、本県主要魚種であるスルメイカをはじおり、本県主要魚種であるスルメイカをはじおり、本県主要魚種であるスルメイカをはじおり、本県主要魚種であるスルメイカをはじおり、本県主要魚種であるスルメイカをはじおり、本県主要魚種であるスルメイカをはじおり、本場主要魚種である人のとなっておりません。

えてきたのではないかと思われます。 ・ はい状況の中にも、一部には明るい兆しも見いなっました。また、原油価格の下落により、燃いが安値傾向となったことによるコスト減等、燃いました。また、原油価格の下落により、燃いが見いができ、一方、ホタテガイは生産額が一六○億円をす。一方、ホタテガイは生産額が一六○億円をす。一方、ホタテガイは生産額が一六○億円を

のため、昨年度から定期預金や給与振込・年金ことが、果たすべき使命と捉えております。こ社会の発展への貢献を通じて浜の暮らしを守る社会の発展への貢献を通じて浜の暮らしを守るは、浜の皆様がいかなる時も安心して生活いた融機関であるJFマリンバンクといたしまして融機関であるJFマリンバンクといたしまして融機関であるJFマリンバンクといたしまして

でざいます。 口座指定等を対象にした「全国統一キャンペーロ座指定等を対象にした「全国統一キャンペー にも増して、家計メイン口座化を促進で 性部の皆様が実施している魚食普及や貯蓄推進 性部の皆様が実施している魚食普及や貯蓄推進 性部の皆様が実施している魚食普及や貯蓄推進 を展開し、JFマリンバンクをご利用いた でさるよう、事業推進に取り組んでいるところで きるよう、事業推進に取り組んでいるところで さざいます。

り、 を紹介する動画を掲載し、 リンバンクホームページ」において、全国の浜 援隊」を結成し、 を目的とした女性6名によるグループ「浜の応 Fマリンバンクにて全国の浜を活性化すること ポンの浜」というキャッチフレーズのもと、 おきましては、 しております。本取組みについては、「JFマ さらには、今年度から、「愛してるよ!ニッ 地域のイベントを盛り上げる取組みも実践 広報活動にも力を入れております。本県に 漁業について関心を持っていただけるよ 大間漁協・三沢市漁協・平 全国の浜へ派遣することによ 組合員以外の方に J

漁協の役割や取組みを紹介すべく、 させていただいております。 ホームページ」にて、青森県の新鮮な海産物や 漁協様にご協力いただき、「JFマリンバンク 動画を掲載

が益々高度化しており、単に法令の遵守に留ま 等の排除に向けた取組みや不祥事の発生未然 一方で、 コンプライアンスにかかる社会的要請 金融業界全体としては、反社会的

り、 くことが求められております。JFマリンバン の暮らしを守る信頼の金融」の実現に加え、「青 き、JFマリンバンク利用者の負託に応え、「浜 ども農林中央金庫といたしましても、引き続 て業務を遂行していかなければなりません。私 クは皆様の大切なお金を取り扱う金融機関であ らず、社会からの期待や要請に適切に応えて 信用事業に従事する職員が各々自覚を持

> 願い申し上げます。 のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお 森県の浜の活性化」のために微力ながらお手伝 いさせていただく所存であります。皆様の一層

年のご挨拶とさせていただきます。 皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、 組合員の皆様ならびに漁協系統団体役職員の 最後になりましたが、本年の豊漁と、県下漁

新年あけましておめでとうございます。

頭にあたり、全国の皆様に謹んで新年のご

全国漁業協同組合連合会

平成二十八年 全国系統団体

年頭ごあいさ

代表理事会長

致して行われた取り組みは他に類のないもの ランが承認されており、これほどまで全国で一 りました。昨年十一月末現在で四八一地区のプ 活力再生プラン」の策定・実践に取り組んで参 挨拶を申しあげます。 復活」に向け、 さて、 多くの関係者から評価をいただいておりま 振り返りますれば昨年は、「水産日本 JFグループを挙げて「浜の

大の一翼を担うことができました。 品質をアピールすることで、 ミナー、フェアを開催し、国産水産物の優れた おいても、現地の方々を対象に毎月のようにセ J F K A N D A ンテナショップとしてシンガポールに開店した した。また、本会が、JFグループ初の海外ア 消費者にも一定程度の認知を得ることができま 名流通、小売店でもフェアが開催されるなど、 てもマスメディアに多く登場するとともに、有 「プライドフィッシュプロジェクト」につい W A D A T S U M I し に 国産水産物普及

> 格下落が懸念されるところであります。 税が大幅に引き下げられることで、魚から肉類 りました。 意に至り、 の海藻類を除き全て撤廃という厳しい結果とな されたものの、 への消費のシフトによる水産物消費の減少や 一方で、 さらに、我々にとっては、 漁業補助金の国の政策決定権は維持 昨年十月五日にTPP交渉は大筋 関税についてはノリ、コンブ等 畜産物関 価

宏

り込まれ、 ネット構築事業の運用改善」等の取り組みが盛 をしております。この尊い努力がTPPにより による漁船導入」、「産地の施設の再編整備」、「漁 定された政府大綱に、「担い手へのリース方式 行っています。その結果、十一月二十五日に決 水泡に帰すことにならないようJFグループで 漁業の構造改革」、「漁業経営セーフティ 現在、各浜では漁業者が血の滲むような改革 強力な支援策を求める活動を関係要路に 補正予算等での実現に取り組んでい

きます。

持って経営に取り組んでいけるよう今後も活動 置き、 ますが、「ピンチをチャンスに」を常に念頭 TPPをはじめ震災復興など厳しい状況は続 意欲ある漁業者が将来に亘って希望を

をしていく所存であります。

ンの完遂に向け、 以上に英知と総力を結集していただき、浜プラ はこの難局を乗り越えていくために、これまで 会員をはじめ、 関係者の皆様におかれまして 引き続きのご理解・ご協力を

頂きたくお願い申しあげます。

挨拶といたします。 ご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、 つつ、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全と 最後になりますが、漁業の豊かな将来を念じ 新年のご



全国共済水産業協同組合連合会 代表理事会長 鎌 田

三か年計画最終年度に向けて

頃からJF共済の普及推進活動に熱心にお取り 組みいただき心よりお礼を申し上げます。 たり、一言ご挨拶申し上げます。 はじめにJF役職員、関係者の皆様には、 明けましておめでとうございます。 年頭にあ 日

刻な課題が山積しています。 筋で合意したTPPへの対応等、 たる魚価安、原発事故による風評被害、また大 ろの主要魚種における漁獲量の減少と長期にわ さて、JF共済を取り巻く情勢は、このとこ 依然として深

ことのできる魅力ある漁村・地域づくりに貢献 の「暮らしの保障」に万全を期すことを通じて、 には海に生き、浜に生活する組合員・地域住民 しい海と漁業を守り、豊かに安心して暮らす こうした厳しい環境ではありますが、 私たち

図 基 する使命と役割があります。

域づくりの支援、といった主要施策を着実に実実施体制の確立、④元気で活力のある漁村・地 としています。 行し、JF共済事業の健全性強化をはかること 日 合員等利用者ニーズに対応した保障提供、 年 ・度とするJF共済三か年計画に掲げた、①組このため、JF共済では平成二十六年度を初 本大震災被災JFの復興支援、③万全な共済 ② 東

実践することにより、 を目的として、 保有契約量の減少傾向に歯止めをかけること っていくこととしています。 盤を確立し、JF共済事業の健全性強化を また、基幹事業種目であるチョコーについ 共済事業量目標を設定しこれを 継続的かつ安定的な事業 7

は

いる所存です。 げた目標の必達に向けて積極的に取り組んでま 新規契約の加入促進運動をすすめ、同計画に掲 訪問を基調とする保障点検活動とチョコーの純 平成二十八年度は三か年計 推進本部を中心にJFと一体となり、全戸 画の 最終年度です

した。 ンシー・マージン比率を確保することができま 備金の充実強化を行い、 九百%を超えるソルベ える増資のお引受をいただき、さらには、各準 しい事業環境にもかかわらず、三十八億円を超 ら三か年にわたる増資計画を実行し、 いっぽう、JF共水連では平成二十 非常に厳 -四年度

礼を申し上げます。 す。併せて皆様方のご理解とご尽力に、厚くお かな個別ご案内が奏功し対象者の約五十八% 括払制度」の選択状況は、 て、二年間限定で行っている漁業者年金の「一 (平成二十七年十月末) の方が選択されていま 加えて、一昨年の七月からJF系統方針とし JFにおけるきめ細

ご協力を賜りますようお願い申し上げ、 まいりたいと存じますので、 努め、組合員・地域住民の皆様の負託に応えて ご挨拶とさせていただきます。 今後も一層の経営の健全性・ 引き続きご指 信 頼性の確保に 新年の



岡

沼

明

見

代

表

理

越

ほか役職員

同

II

か職員一同

監

事

山

口

隆

治

代

表

監

事

I

藤

伍

郎

田

髙

利

美

本

幸

宏



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長

石

憲

赤

三津谷 廣

副

会長

理 事

政 明

明

青森県漁業信用基金協会

奈良岡

修

ほか役職員

同

昭

理

事

木

浪

]]]

村

敏

博

木

春

美

専

務

理

事

小

出

組合長理事

福

島

哲

ほか役職員 同 男

組合長理事

三津谷 廣

ほか役職員 同 明

共済推進本部

本

Ξ 國

ほか役職員一

同

優

靖 夫

9

青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長

西 﨑

ほか役職員一 同 三

シンガポール青森県フェア開催

去る10月3日から17日の2週間、シンガポールのアンテナショップ「JF KANDA WADATSUMI」において全漁連の協力のもと青森県フェアを開催しました。3日に行われたセミナーには、赤石会長はじめ関係団体から9名が出席しました。セミナーでは、本会熊木参事が「日本の青森県で漁獲される日本一のプライドフィッシュを持参して参りましたのでよろしくお願いします。」と本日紹介する5魚種(ヒラメ、ホタテ、マグロ、スルメイカ、シジミ)をPRしました。会場では、地元からの参加者ら約50名が試食をし、大いに賑わいました。

閉会の挨拶で赤石会長は、「青森県は日本有数の水産県で、水産物のブランド化、魚価向上に 努めており、本日のセミナーを足がかりに海外に本県の水産物を発信して参りたい。」と締めく くりました。











ヒラメ

ホタテ

マグロ

スルメイカ

シジミ



試食する参加者







セミナー風景

平成 27 年度役職員研修会開催

去る、10月6日、青森県漁連・青森県信漁連・(公社)青森県経対協の主催による研修会を、 青森国際ホテルにおいて、組合長をはじめ役職員222名参加の下開催いたしました。

始めに、赤石県漁連会長より「本県漁協の現状は、要である販売取扱高減少と筆頭職員の退職により事務が停滞する傾向にあり、経営不振漁協が増加傾向にあるため、漁協組織再編を含めた基盤強化が急務である。本日の研修会を期に、組合長・役員の責任として、漁協の方向性、将来像について検討して頂きたい。」と挨拶を述べた。

続いて、西崎県信漁連会長より「昨年度2件の不祥事があった事に対しお詫びを申し上げます。本日は、再発防止に向け、コンプライアンスに関するご講演を猪原先生にお願いしています。また、JF全国監査機構の近江委員長より役員としてのあり方をご講演いただきますので、よろしくお願いします。」と挨拶を述べた。

次に、青森県農林水産部山内水産局長が祝辞を述べ、その後、研修を行った。

始めに、猪原弁護士より「コンプライアンス(役員責任等)」と題し、「不祥事の未然防止のためには、リスク管理とコンプライアンスが両輪で機能する態勢作りが必要である。」とご講演を頂いた。



赤石県漁連会長



西﨑信漁連会長



山内水産局長



猪原法律事務所·猪原健弁護士



研修風景



県漁連熊木参事



JF 全漁連全国監査機構·近江正幸委員長

続いて、県漁連熊木参事より「本県漁協の現状と課題」と題した講演があり、「これまでの合併計画とその弊害の要因」、「組合員・販売取扱高の減少による漁協の厳しい現状」を踏まえ、今後、役員として何をしなければならないかを考えて頂きたいとの提言があった。

次に、近江 JF 全漁連監査委員長より、「JF 役員としての在り方(JF 経営陣の義務と責任)」と題した講演があり、「漁協が社会から信頼される組織となるためには理事・監事の検証が必要であり、監事監査、内部検査が重要となる」とのお話を頂いた。

最後に、主催団体からの報告として、県漁連小出専務より、今後の「組織再編・基盤強化に向けたスケジュール」について、県信漁連梅田専務より「信漁連の店舗統廃合案」について説明があり、研修会を終了した。

密漁撲滅にむけた罰則強化等の要請!

月林宗省馮忉



水産庁防災漁村課 望月課長補佐



質問する出席者

本県におけるナマコの生産量は約1.350トン、生産金額は約32億円で、本 県の主要魚種の一つであり、特に陸奥湾では、ホタテガイに次ぐ重要な水 産資源となっている。

しかし、近年は中国の需要増加による価格高騰を背景に、悪質巧妙で組 織的な密漁が横行しており、漁業・漁協経営に大きな被害を及ぼしている。

平成26年10月の蓬田村漁協の密漁事件に続き、平成27年10月には川内 町漁協区域沖合で密漁者が摘発されている。被害額はそれぞれ2億円規模 になっている。

この組織的密漁は反社会的勢力の資金源になっていると考えられ、罰則 が軽ければ他道県から更に多くの密漁グループが本県に入り込むことが危 惧されている。

漁業者はこれまでも密漁監視等を行ってきたが、自己防衛だけでは限界 があることから、平成27年4月24日、青森県水産ビルにおいて、本会・水 産庁・海上保安部・県警・県による「密漁防止研修会」を開催した。

罰則強化に関しては、平成27年10月30日に三村県知事、11月12日に県選出国会議員、11月17日に県 議会議長に対し、青森県漁連・青森県経対本部の連名により密漁の罰則強化についての要請を行った。

また、平成27年10月21日には、青森県漁連とむつ湾漁業振興会の連盟により、青森警察署長、青森地 方検察庁に対し、密漁の厳罰化についての嘆願書を提出した。

【現行の密漁に関する罰則】

(漁業法)第138条 無許可操業 3年以下の懲役又は200万円以下の罰金 第143条 漁業権侵害 20万円以下の罰金

【県知事要請内容】

- 1. 県においては、警察、海上保安部、漁業関係者との連携を密にし、密漁撲滅に向けた監視体制を早 急に構築し、密漁取締りの更なる強化を図ること
- 2. 密漁の罰則強化について、国に働きかけること。

【国会議員要請内容】

1. 本県のナマコの密漁については、漁業者と捜査機関の連携により対 策が講じられてきたが密漁は後を絶たず、近年では、悪質巧妙で常 習的な密漁グループが横行しているにもかかわらず、罰則が軽微で あることから、再犯や他県からの流入も懸念される。

このことから、密漁根絶に向けた抑止対策として、密漁の罰則強化 を早急に図っていただきたい。

【嘆願書の要旨】

ナマコは、零細漁業を営む漁業者が稚ナマコの放流や魚礁の設置等、 時間と労力をかけて保護培養を行っている。大切な資源であり、このま までは、ナマコ資源の枯渇と漁業者の生活が奪われることが憂慮される。 罰則が軽ければ再犯の可能性が極めて高く、第二第三の犯行が危惧され ることから、処分は厳罰とし、犯罪の防止に資すべきと考える。

本県沿岸漁業者の財産と生活を守り、密漁を撲滅するため、漁業権侵 害のみならず無許可操業として厳罰処分されることを切に嘆願申し上げ

本会は、今後も密漁撲滅に関する罰則強化を関係機関等に働きかけるとと もに、官民一体となった密漁監視態勢の更なる強化に取り組んで参ります。



県知事への要請



津島衆議院議員への要請

第30回 漁協運動功労者表彰

去る11月19日、全漁連主催による2015年度(第30回)漁協運動功労者表彰式が東京・如水会館で開催され、受賞者36名が表彰されました。青森県からは、むつ市漁協の新谷組合長が表彰されました。

受賞者



JFむっ市 代表理事組合長 新 谷 富 也

<功績内容>

昭和34年漁業に従事、昭和61年理事に就任後、平成17年9月に第5代代表理事組合長に就任し、優れた指導力を遺憾なく発揮し、組合員そして組合の更なる発展に努め現在に至っている。又、平成18年に青森県栽培漁業振興会理事、平成20年に青森漁場監視団連合会監事、青森県漁業信用基金協会理事へそれぞれ就任し、資源管理と各種漁業問題、更には、むつ市漁協、川内町漁協、脇野沢村漁協の3漁協協議会会長として販売事業統合の取り組みや今後の漁協合併に積極的に取り組んでいる功績は、誠に大である。

平成27年度 水產功績者表彰

去る11月26日、大日本水産会主催による平成27年度水産功績者表彰式が東京・三会堂ビルで開催され、35名が表彰されました。明治23年以来、水産業の振興発展に功績のあった方々を水産功績者として毎年表彰しており、青森県からは赤石県漁連会長が表彰されました。

受賞者



JF青森漁連 代表理事会長 赤石憲二

< 功績内容 >

中学校卒業後いか釣り漁業に従事、昭和56年6月から泊漁業協同組合理事を15年務めた後、 平成8年6月より同漁業協同組合代表理事組合長に就任、永年に亘り、指導者として漁協系 統運動に精励し、組合の経営基盤の確立と社会的地位の向上に尽力した。

平成9年6月から青森県漁港漁場協会理事、平成11年6月からは青森県漁業協同組合連合会監事に、平成23年7月からは同漁業協同組合連合会代表理事会長に就任するとともに、青森県漁業経営安定対策本部本部長、青森県漁船海難防止・水難救済会会長を務めるなど本県水産業の振興・発展に努めた多くの功績は、誠に大である。

「マイナンバー制度への対応に関する」 漁協職員研修会開催

去る、12月4日、青森県漁連・(公社)青森県経対協の主催による「マイナンバーへの対応」 並びに「漁協決算実務」の研修会を、水産ビルにおいて約100名参加のもと開催いたしました。

「マイナンバー」については、「社会保障・税関係等」の行政手続きが、平成28年1月から随時利用が開始されることから、JFグループとして対応すべき内容を項目別に説明を行いました。

- (1) マイナンバー対応に係る整備すべき規程類
 - ①「個人情報取扱規程」の制定または一部改正
 - ②「個人情報保護方針」の制定
 - ③「特定個人情報取扱規程」の制定
 - ④ 「職員個人情報取扱規程」の制定
- (2) 役職員からのマイナンバー取得の仕方
- (3) マイナンバーの管理・保管
- (4) マイナンバーの廃棄・削除

※「マイナンバー法」の情報漏えい等については、個人情報保護法により罰則が強化されており、「マイナンバーの管理」にあたっては、安全管理措置を確実に実施するよう説明した。

「漁協決算実務」については、最新版の「業務報告書の作成手引き」、「注記表の記載例」、「基準勘定科目の解説」により、決算に向けて適正な業務報告書の作成が図られるよう、改正された項目の説明をしました。

また、研修会においては、講師の中野俊一氏より「マイナンバーと年金・医療・介護のかかわり」について基調講演を頂きました。



研修の様子



ジブラルタ生命・中野俊一氏

七年度

た。 度青森県漁協系統購買担当者研修会を開催し 階において、青森県漁連主催の平成二十七年 成二十七年十月二十二日 (木)、水産ビル

ることを目的に実施した。 者相互の交流を深め、系統購買の推進発展を図 来賓である全漁連、 識・ 研修内容について説明を行った。 始 この研修会は、 めに、 商品知識を習得するとともに、 県漁連の赤石会長が主催者挨拶後 購買事業の業務に必要な石油 道漁連の紹介をし、 購買担当 講師よ

り

知



(5)

全漁連

推進商品について(コンボルトタン

7

クについて)

4 3 2 1

軽油の免税処理に係るシステム紹介につい

研

修内容は次の通り。

購買事業の状況について

最近の石油情勢について

事業状況について(販売・ほたて)

講師の全漁連の方々



主催者挨拶



研修会参加者

平成二十七年度

関する活発な意見が交わされました。 において「平成二十七年度共販販売担当者会 が開催され、魚価の低迷や漁獲量減少等に 月 九日、 青森県水産ビル七階「大会議室」

な会議となりました。 題や水産物流通に係る質問も多数出され有意義 これからの水産物の流通における課題等につい また、 講演をいただきました。講演ではTPP問 買受業社の視点から水産物流通の多様化、 青森中央水産㈱の池田常務を講師に迎

- 1 績について 平成二十七年度九月末取扱実
- 況について平成二十七年度販売事業の状

2

講演:演題「青森市中央卸売市場から見 販売に係る協議について

3

講師:青森中央水産株式会社 える水産物流通の課題」

常務取締役

池田

康

氏



講演する青森中水池田常務



各組合職員と駐在職員

平成27年度 海難防止技術競技会青森県大会

平成27年9月12日(土) 六ヶ所村 泊漁港において、平成27年度『海難防止技術競技会青森県大会』が開催され、県内12箇所の救難所員と漁協関係者、約600名が参加のもと、人命救助に係る海難技術競技及び水難訓練を実施した。

最初に主催者を代表し、赤石憲二会長 (JF 青森漁連会長)より『本会では、海難事故の防止と人命救助を大きな柱として、これまで数々の啓発運動を関係機関と連携しながら展開してきたが、依然として海難事故は後を絶ちません。

救命胴衣着用は、自らの命を守るだけではなく、大切な家族や仲間のためであり、また人命はこの世で最も尊いものであることから、海難事故現場に真っ先に駆けつける救難所員の大切さは言うまでもありません。その現場では救難所員の的確な判断と迅速な行動が不可欠となります。そのため、救難活動の技術向上と救難所員の救命意識を高めるため、24年度より各地域で実施した大会の集大成として青森県大会を開催し、海難事故撲滅に努めて行きたい。』と挨拶をした。

次に、来賓として戸田六ヶ所村長、五反田八戸海上保安部長、山内青森県水 産局長から挨拶を頂いた。

続いて、海難救助出において功労があった、小泊救難所 久保田所長、佐々 木班長に対し、赤石会長より功労者表彰が授与された。

~海難防止安全宣言~

青森市漁協奥内支所青年部 杉田 良尚氏より常日頃より自分の命は自分で守るという強い意志をもち行動する必要がある。我々は本日の大会を機に更なる安全操業の徹底と救命胴衣の常時着用を心がけ、海難事故ゼロを目指し努力する事を宣言した。

泊漁協女性部長 秋田谷 洋子氏より浜の女性として、妻として、母親として 子々孫々の為に恵みの海を守り、安全操業に努め、漁業の火を絶やすことがな いよう、救命胴衣の常時着用と着用率100%を目指し、強く呼び掛けることを 宣言した。



赤石会長



功労者表彰授与式



青森市漁協奥内支所青年部 杉田 氏



泊漁協女性部 秋田谷 氏

~海難技術競技会~

救難所の技術向上を目指す為の海難技術競技会に、青森県内12救難所から総勢180名が整列競技・火災 船消火競技・心肺蘇生競技の3競技について技術を競い合った。

①救難所員整列競技

各救難所から所長以下5名が参加し、救難所員としての基本動作が機敏で正確に行われているかを競い合う競技。

②火災船消火競技

各救難所から所長以下5名が参加し、基本動作に加 え消火作業が正確に行われているかを競い合う競技。





整列競技風景



消火競技風景(1)



消火競技風景(2)



消火競技風景(3)

③心肺蘇生法競技

各救難所から3名が参加し、基本動作に加え心肺蘇 生の手順・胸部圧迫・呼吸法が正確に行われているか を競い合う競技。





心肺蘇生法競技風景

~水難訓練~

合同訓練では、泊漁協所属船が漁を終え帰港している船舶と、漁に向かう船舶が衝突事故を起こしたという想定で行った。訓練は、泊救難所と八戸海上保安部が合同で行い、対策本部からの指示に従い水難救助訓練を行った。

①船舶救助訓練

衝突事故に伴う、航行不能船への救助曳航訓練。

②乗組員救助訓練

故障船曳航の際に、誤って転落した乗組員の救助のため、曳航の伴走船が転落した乗組員を救助。救助された乗組員は意識不明状態であるため、船内で救難所員が心肺蘇生を行いながら漁港へ搬送した。漁港で待機していた救難所員が引続き心肺蘇生を行った。



船舶より転落する乗組員 転落者の



転落者の救助訓練

~会場保安部展示訓練~

八戸海上保安部による展示訓練として、もやい銃の 発射訓練を実施。

もやい銃とは、故障船や漂流者へ近づくことが出来 ない場合などに利用される海難器具であります。



もやい銃の発射訓練

~決意表明~

本大会を通して救難所を代表し、佐井救難所 坂井所長が「我々 海と生活を共にする救難所員は海難事故の無い平和な海を祈り、日々の訓練・救難機器の整備に努めている。

しかし、一瞬の気の緩みや過信により海難事故は発生する。取り返しのつかない悲劇を防ぐためにも、操業時には最善の注意を払い、常日頃から事故未然防止に対する心がけと救命胴衣の着用を徹底し、自分の身は自分で守ることが必要。本大会の目的である救難所の活性化と海難事故に対する意識を高め、犠牲者を出さないよう、この運動を継続し海難事故撲滅に努める。」と決意表明した。



佐井救難所 坂井所長

~講評~

最後に、青森海上保安部 前川部長より本日の技術訓練及び合同訓練について講評を頂いた。

「本日の大会は、常日頃より海難技術訓練の成果を遺憾なく発揮でき、非常に 統制がとれておりました。

今後、尊い人命と貴重な財産を失わないためにも、今まで以上に海難防止に 対する意識の高揚と啓発が必要である。また、このような運動は継続すること が海難事故撲滅に繋がるものである。|旨の講評があった。



青森海上保安部 前川部長

技術競技結果

総合1位 新深浦町救難所

総合2位 佐井救難所

総合3位 泊救難所



第1位の新深浦町救難所

平成27年度むつ湾漁業振興会役員視察研修

去る9月28日から30日の3日間、宮城県仙台市、石巻市、南三陸町において役員研修が行われました。

研修には、役員20名、他事務局3名が参加し、宮城県漁協との今の現状他について意見交換を行いました。

宮城県では7海域でホタテガイ養殖を行っており、以前はむつ湾から種苗を購入していたが、付着物が多く、歩留りが悪い為、北海道から仕入れるようになった。只、震災後、ザラボヤが見え始め、噴火湾からは入れないよう注意喚起している。施設については完全復旧しておらず、岸壁の整備も進められているがまだまだ時間がかかる模様ということでした。

また、震災前と比べ漁業者の数は年々減ってきており(ホタテ養殖漁業者710名から330名に減少)、震災後は更に高齢化も進み労働力も不足、組合だけでの対応では限度があることから、行政にも協力を求めているところです。

これらの対応として震災復興事業、協業化(3人以上のグループ)や漁業共済への加入、がんばる漁業(ホタテ、カキ、海苔、銀鮭、ワカメ)などが進められております。

震災から4年以上経過しましたが、役職員一丸となり補助事業の利用等による復興、復旧に尽力されてきたことがひしひしと感じられました。深く敬意を表するものであります。更に一県一 漁協であったことも早急に対応できた一因と言われておりました。

改めて、協同組合における団結力の重要性を意識させられた研修でした。



宮城県漁協前、慰霊碑にて

水産に関する主な動き((8月≈12月))

| 8月 | 事項 | 場所 |
|--------|--------------------------|-------|
| 11日(火) | 風評被害賠償請求に係る説明会 | 青 森 市 |
| 27日(木) | 太平洋クロマグロの資源・養殖管理に関する全国会議 | 東京都 |

| 9月 | 事項 | 場所 |
|--------|-----------------------------|-------|
| 8日(火) | むつ湾地区共販推進会議 | 青 森 市 |
| 9日(水) | 1県1JF合併推進及び合併後の組織事業運営に係る勉強会 | 東京都 |
| 12日(土) | 海難防止技術競技大会 青森県大会 | 六ヶ所村 |
| 17日(木) | 青森県漁業共済組合創立50周年記念式典 | 青森市 |

| 10月 | 事項 | 場所 |
|---------------|-------------------|--------|
| 3日(土) | シンガポール青森県フェア | シンガポール |
| 6日(火) | 漁協役職員研修会 | 青森市 |
| 9日(金) | 漁協共販販売担当者会議 | 青森市 |
| 13日(火) | 青森県定置漁業協会 全体会議 | 青森市 |
| 16日(金) | アンファン号座礁対策会議 | 深浦町 |
| 22日(木) | 第66回全国漁港漁場大会 | 東京都 |
| 22日(木) | 漁協系統購買担当者会議 | 青森市 |
| 23日(金) | 北海道・東北漁船海難防止連絡協議会 | 青森市 |
| 25 ⊟ (⊟) | 第35回全国豊かな海づくり大会 | 富山県 |
| 27日(火)~28日(水) | 本会監事会・監査会 | 青森市 |
| 29日(木) | 青森県魚市場協会 通常総会 | 青 森 市 |

| 11月 | 事項 | 均 | 易克 | 'n |
|--------------|---------------------------|---|----|----|
| 5日(木) | 本会事業部担当理事会 | 青 | 森 | 市 |
| 5日(木) | 本会業務部担当理事会 | 青 | 森 | 市 |
| 5日(木) | 本会理事会 | 青 | 森 | 市 |
| 7日(土)~ 8日(日) | 第6回ぜーんぶあおもり大農林水産祭 | 青 | 森 | 市 |
| 12日(木) | 全国漁連・信漁連会長、漁済組合長合同会議 | 東 | 京 | 都 |
| 12日(木) | 東北・北陸ブロック購買推進会議 | 新 | 澙 | 県 |
| 16日(月) | 北海道・東北地区資材購買ブロック会議 | 札 | 幌 | 市 |
| 19日(木) | 漁協運動功労者表彰式 | 東 | 京 | 都 |
| 25日(水) | 青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議監視委員会 | 青 | 森 | 市 |
| 25日(水) | 青森県試験船「開運丸」竣工式 | 青 | 森 | 市 |
| 26日(木) | 大日本水産会 水産功績者表彰式 | 東 | 京 | 都 |
| 28日(土) | 第43回「海をきれいにする運動」優秀作品表彰式 | 青 | 森 | 市 |

| 12月 | 事項 | 場所 |
|--------|---------|-----|
| 4日(金) | 漁協職員研修会 | 青森市 |
| 11日(金) | 本会理事会 | 青森市 |
| 30日(水) | 仕事納め | 青森市 |

回

三到」優秀作品表彰式 全振興会

表彰状授与

きれいにする運動」 主催:(一社)青森県水産振興会

主催挨拶(吉田水産振興会長)

引き継ぎ、 が、 興 に、 会が

たものです。

県内沿岸域の小・中学校に作品の応募を依

五六七点の応募がありました。

したところ、今年は、

四十二の小・中学校から

専 門審査員による厳正な審査を行

行者等の百十三名が出席しました。 月二十八日の優秀作品表彰式には、 受賞者 V +

四十八年、 続けられており、 た陸奥湾をいつまでもきれいに守っていくため この「海をきれ 平成二十四年度からは青森県水産振興会が 青森県漁業協同組合連合会とむつ湾漁業振 取組み始めたものです。それ以来、 県内全域の海を対象にすることとし ホタテガイの養殖が盛んになってき 今年で四十三回目になります Ņ に する運動」 は、 毎年 昭



主催、来賓、審査委員、

第43回「海をきれいにする運動」受賞者一覧

【図画 小学校】

| 賞 | 名 | 学 | 校 | 名 | 学年 | | 氏 | 名 | |
|----|-----------|------|---------------|------|----|---|----|----|----|
| 特 | 選 | 野辺地町 | 「立若葉/ | 小学校 | 3 | 渡 | 辺 | 美 | 月 |
| 準뽃 | F選 | 青森市立 | 奧内小學 | 学校 | 2 | 佐 | 々木 | 歩 | 夢 |
| 準뽃 | F選 | 青森市立 | 三 奥内小学 | 学校 | 1 | 小 | 野 | 汰 | 成 |
| 佳 | 作 | 青森市立 | 奧內小 | 学校 | 1 | 横 | Щ | 亜代 | 分咲 |
| 佳 | 作 | 青森市立 | 奧内小 | 学校 | 1 | 木 | 村 | 小 | 春 |
| 佳 | 作 | 六ヶ所村 | 立泊小学 | 学校 | 1 | 野 | 々村 | 優 | 人 |
| 佳 | 作 | 東通村立 | 東通小学 | 学校 | 2 | 今 | 井 | 洸 | 希 |
| 佳 | 作 | 青森市立 | 奧内小學 | 学校 | 2 | 三 | 上 | 虎 | 丸 |
| 佳 | 作 | 青森市立 | 奥内小学 | 学校 | 2 | 木 | 村 | 由 | 菜 |
| 佳 | 作 | 青森市立 | 三新城中 | 央小学校 | 5 | 小 | Ш | 晃 | 平 |

第38回 全国海の子絵画展へ出展(6名)

【ポスター 小学校】

| 賞 | 名 | 学 | 校 | 名 | 学年 | | 氏 | 名 | |
|----|---------|------|---------------|------|----|----------|---|----|-----|
| 特 | 選 | むつ市立 | D 奥内小学 | 学校 | 6 | 竹 | Щ | | 秀 |
| 準朱 | | むつ市立 | D 奥内小学 | 学校 | 6 | 畑 | 中 | 琉 | 生 |
| 準朱 | | むつ市立 | 加内小 | 学校 | 3 | \equiv | 玉 | 杏 | 奈 |
| 佳 | 作 | 八戸市立 | 立城下小 草 | 学校 | 1 | 本 | 宮 | 千 | 愛 |
| 佳 | 作 | むつ市立 | 第二田名 | 部小学校 | 2 | 木 | 村 | 蒼 | 輝 |
| 佳 | 作 | むつ市立 | 加内小 | 学校 | 3 | 丸 | 谷 | 菜 | 々 |
| 佳 | 作 | むつ市立 | 加内小 | 学校 | 3 | 中 | Щ | ひょ | ; b |
| 佳 | 作 | 八戸市立 | 在根岸小 草 | 学校 | 5 | 坂 | 本 | さく | ら |
| 佳 | 作 | 深浦町立 | 修道小学 | 学校 | 6 | 古 | Ш | 脩 | 真 |
| 佳 | 作 | むつ市立 | 2奥内小草 | 学校 | 6 | 中 | 村 | 瑠 | 衣 |



表彰風景

【ポスター 中学校】

| 賞 | 名 | 学 | 校 | 名 | 学年 | | 氏 | 名 | |
|-----|---|-------|------|---|----|----|----|---|---|
| 特 | 選 | 青森市立 | 横内中学 | 校 | 2 | 関 | 野 | 望 | 美 |
| 準特. | 選 | 青森市立治 | 浪打中学 | 校 | 2 | 張 | 間 | | 遍 |
| 準特. | 選 | 平内町立 | 小湊中学 | 校 | 3 | 蝦 | 名 | 稀 | 麟 |
| 佳 | 作 | 青森市立 | 横内中学 | 校 | 1 | 石戸 | ゴ谷 | 柚 | 稀 |
| 佳 | 作 | 青森市立 | 横内中学 | 校 | 1 | 笹 | | 夢 | 乃 |
| 佳 | 作 | 青森市立 | 横内中学 | 校 | 2 | 木 | 村 | 晴 | 華 |
| 佳 | 作 | 青森市立 | 横内中学 | 校 | 2 | 千 | 葉 | 桃 | 花 |
| 佳 | 作 | 青森市立 | 横内中学 | 校 | 2 | Ш | 上 | 昭 | 恩 |
| 佳 | 作 | 青森市立 | 横内中学 | 校 | 2 | 蝦 | 名 | 咲 | 季 |
| 佳 | 作 | むつ市立 | むつ中学 | 校 | 3 | 東 | | 佳 | 澄 |

【作文】

| 賞 | 名 | 学 | 校 | 名 | 学年 | | 氏 | 名 | |
|----|---------------|------|-------|------|----|---|---|----|----|
| 特 | 選 | 外ヶ浜町 | 丁立三厩/ | 小学校 | 6 | 田 | 中 | 杏 | 実 |
| 準朱 | | 外ヶ浜町 | 丁立三厩/ | 小学校 | 6 | 浜 | 谷 | 康 | 平 |
| 準果 | 持選 | 外ヶ浜町 | 丁立三厩/ | 小学校 | 6 | 伊 | 藤 | 優 | 斗 |
| 佳 | 作 | むつ市立 | むつ中 | 学校 | 3 | 住 | 吉 | | 萌 |
| 佳 | 作 | むつ市立 | むつ中 | 学校 | 3 | 大 | 石 | 日茅 | き子 |
| 佳 | 作 | むつ市立 | たむつ中 | 学校 | 3 | 小 | 谷 | 龍 | 葵 |
| 佳 | 作 | むつ市立 | むつ中 | 学校 | 3 | 菊 | 池 | 紀 | 摩 |
| 佳 | 作 | 風間浦村 | 寸立易国际 | 間小学校 | 6 | 和 | 田 | 涼 | 翔 |

【標語】

| LINE | | | | | | | | | |
|------|----|------|-------------|------|----|----|---------|----|----|
| 賞 | 名 | 学 | 校 | 名 | 学年 | | 氏 | 名 | |
| 特 | 選 | むつ市立 | でむつ中 | 学校 | 3 | 小笠 | | 花 | 月 |
| 準华 | 寺選 | むつ市立 | でむつ中 | 学校 | 3 | 泉 | | 優月 | き |
| 準华 | 寺選 | むつ市立 | 第二田名 | 部小学校 | 4 | 町 | 田 | 大 | 翔 |
| 佳 | 作 | 佐井村立 | 福浦中 | 学校 | 2 | 田 | 中 | | 輝 |
| 佳 | 作 | 平内町立 | 東平内 | 中学校 | 2 | 四 | 戸 | 快 | 人 |
| 佳 | 作 | 横浜町立 | 五横浜小 | 学校 | 2 | 福 | 井 | 聖 | 人 |
| 佳 | 作 | むつ市立 | でむつ中 | 学校 | 3 | 岡 | 田 | 果 | 林 |
| 佳 | 作 | むつ市立 | 加内小 | 学校 | 3 | 小 | 針 | 香煮 | 除子 |
| 佳 | 作 | 風間浦木 | 立易国 | 間小学校 | 4 | 杉 | Щ | 右 | 真 |
| 佳 | 作 | 平内町立 | <u></u> | 学校 | 6 | 伊 | 藤 | 瑞 | 姫 |

一回「海をきれいにする運

作文の部 『海との約束

外ヶ浜町立三厩小学校

「なんでこんなにきたないの。」

りしてさけびました。 は、ごみがいっぱいある海を見て思わずびっく夏休み前にお父さんの船に乗って海に出た私

たって言ったじゃない。」 「お父さんは、三厩の海はきれ いになってき

岸清掃をしているから、きれいになっているは「漁師たちや、杏実たち小学生や中学生が海 ずなんだけれど。」

と、お父さんは言いました。

をする姿をずっと見てきている私は、将来漁師十年もマグロをつってきました。お父さんが漁私のお父さんはマグロ漁師です。この海で何 り続けてほしいと、いつも思っていました。 友達のような存在なので、その海がきれいであ になりたいと思っています。小さい頃から海は 「今年の夏休みは、 六年生で三厩の海も掃 除

「これを見て。」

竜飛海岸清掃の他に、三厩の海岸清掃も夏休みと、先生が言いました。六年生になった今年、 たちの先輩たちもずっと続けてきていることで に行うことになりました。この海岸清掃は、私

します。」

きっと竜飛よりもごみは少ないよね。」

柚杏さんと掃除をする前に二人で話していま ないんじゃないかな。」 三厩の海は波が高くないし、外国のごみは 竜飛の方には、外国のごみがあったけれど、

れいな海でした。そんな時です。 「やっぱりごみは少ないんじゃない。」 いよいよ掃除をする時になりました。 優斗くんが言いました。確かに見た目はき

ころが、ビニールぶくろをデレキで取り出すビニールぶくろがすきまから出てきました。とはデレキを使ってごみを取り出してみました。トラポットの間にごみがはさまっています。私 と、康平くんが言いました。テトラポットとテ です。そして、ペットボトルや発泡スチロールなど大きなごみ と、次から次へとごみが出てきます。 「あれ。ここにごみがうまっているよ。」 しかも

た。 いやだったので、夢中でごみを拾い続けましいやだったので、夢中でごみを拾い続けまし入れ物でした。私は海がきたないことがとても国の文字で書かれたラーメンのふくろや洗剤の国の文字で書かれた見せました。それは、韓

拾いました。 ぶくろいっぱいになるほど、たくさんのごみをと、柚杏さんと話しながら、暑さを忘れてゴミ 「なんでこんなに大きくて、しかも、 みが、こんなところにたどりつくんだろう。」 外国のご

まぐろのえさになるいかをつりに漁に出ることい出しました。夏休みに入る直前、お父さんがごみを拾いながら、夏休み前の海のことを思

と言うと、 「私もいっしょに行きたいな。」

になりました。

と、お父さんが言ってくれたので、私もいっしょ に海についていくことになりました。 「今年は海がきれいに見えるね。」 「杏実もいっしょに行くか。」

と、私は言いました。

と、お父さんは言いました。私はとてもうれし んめいごみを拾ってくれているから、海がきれ「地域の人や漁師たち、子どもたちが一生け いになったのかもしれないね。」 「地域の人や漁師たち、子どもたちが一生

てきません。 と、いかを入れるいけすにはなかなか水が入っところが、しばらく船が海の中を進んでいく い気持ちになりました。

と私は言いました。お父さんは、 「お父さん、いけすに水が入ってこないよ。

なったのです。 と、言いました。さっきまではたくさん水が入っ てきていたのに、あっという間に水が入らなく 「あれ。なんでだろう。何かつまっているな。」

「なんだ。これ。」

たからです。 な海なのに、実はごみがまだまだたくさんあっ の言葉が書かれているものもありました。私くさんのビニールぶくろでした。中には、外国 と、ごみの正体は、カップラーメンのからやた そのごみのかたまりをよく見てみました。する かたまりになって、つまっているのです。私はと、お父さんは大きな声で言いました。ごみが は、とてもがっかりしました。見た目はきれ

海を守っていきたいと思います。 ら、その夢を実現するために、ごみを捨てない んといっしょに漁をすることが夢です。だか とがあります。私はきれいな海で、将来お父さ た。その約束を忘れずに、これからも大好きな て、きれいな海を守っていくと海に約束しまし ことはもちろん、一つでも二つでもごみを拾っ 私は、そのたくさんのごみを見て、決めたこ

≪標語の部≫ 特 選

海の日

は

家族みんなで

第43回 **「海をきれいにする運動」優秀作品**

≪図画の部≫「小学校」

≪ポスターの部≫「小学校」

特選 (全国絵画展出展)





野辺地町立若葉小学校 3年 渡辺 美月 さん



むつ市立奥内小学校 6年 竹山 秀 さん

≪ポスターの部≫「中学校」

特 選



青森市立横内中学校 2年 関野 望美 さん

3 年 小笠原むつ市立むつ中学校 花月 さん

平成27年度 **密漁防止絵画コンクール**

青森県漁場監視団連合会では、「密漁防止」の普及啓発活動に努めており、この「密漁防止」の推進を通して、健全で明るい水産業の振興に資することを目的に「密漁防止」に関する作品を募集したところ、小・中学校合わせて 230 点を超える応募がありました。11 月 17 日に審査会を開催したところ、次のとおり最優秀賞、金賞、銀賞が決定しました。

≪小学校の部≫

最優秀賞



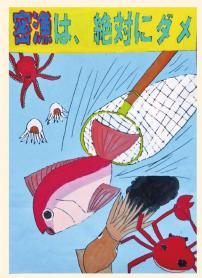
むつ市立第二田名部小学校 3年 四ツ谷 星佑 さん

金賞



青森市立甲田小学校 6年 蝦名 沙耶 さん

銀賞



青森市立甲田小学校 6年 伊藤 璃音 さん

≪中学校の部≫

最優秀賞



むつ市立田名部中学校 2年 福澤 恭弥 さん

金賞



むつ市立大畑中学校 1年 長津 琴音 さん

銀賞



むつ市立大畑中学校 1年 越善 優希 さん

平成28年1月15日

〈発行〉青森県漁業協同組合連合会 青森市安方―丁目1番地32号 TEL017-722-4211代 〈印刷〉 ワタナベサービス株式会社